

若手イニシアティブセミナー

Wakate-Initiative Seminar

アンカーアウェイ法：薬剤を用いた核局在タンパク質の局在変化による機能阻害法

春木 宏仁 博士

Department of Biochemistry, NCCR Frontiers in Genetics,

University of Geneva

(Laemmli Ulrich 研究室)

日時：平成21年4月2日 17:00–18:00

会場：筑波大学 総合研究棟 D D115会議室

アンカーアウェイ法ではラパマイシンによるFKBP12とFRBの二量体化を利用し、FRBをタギングした核局在タンパク質を、FKBP12をタギングした細胞質局在タンパク質(アンカー)に固定化することで機能阻害する。アンカーとして大量に生産され、かつ成熟の過程で一度核を通過するリボソームタンパク質を用いることで、核局在タンパク質を強制的に細胞質に排出することに成功した。本セミナーではアンカーアウェイ法の性能と開発過程についてご紹介する。

Haruki, H., Nishikawa, J., and Laemmli, U. K. (2008). Mol Cell 31, 925-932.

連絡先： 人間総合科学研究科 奥脇 暢

内線 7950、mokuwaki@md.tsukuba.ac.jp